

データ駆動型農業の実践・展開支援（データ駆動型農業の実践体制づくり支援）に関する事業評価票

事業実施者名	事業実施年度	成果目標の内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
			基準年 (事業実施前年度) 年度	目標年 5年度	目標値	達成度合		
高山スマートアグリ次世代施設園芸拠点整備協議会	令和2年度	①環境モニタリング等を活用してデータ収集・分析する技術を地域に普及する技術指導者数の増加	指導者数 0人 (事業実施前年度) 平成30年・令和元年度	指導者数 10人	指導者数 5人	200.0%	水管理の省力化のため、日射比例灌水装置と既存灌水装置の設定および灌水量の要更・調整頻度差を比較。データを活用し日射比例装置の適切な設定を模索することで栽培技術の理解を深めた。	指導者の確保は計画以上に行えた。収穫量当たりの生産コストは、収穫量は確保できたが、種苗費、光熱動力費、雇用費が増加してしまい、目標達成に至らなかった。光熱動力費及び最低賃金は社会情勢によるやむを得ない上昇が見られるため、今後は、2本仕立て苗の導入による種苗費削減等を指すとともに、高温による減収が見られるので、水冷式冷風機の導入による収穫量の増加を目指す方向で事業実施者が改善に取り組む予定なので、県を通じて指導する。
		②省力化技術の導入を行い、単位面積当たり生産コストを縮減	生産コスト：936円/kg/年 (事業実施前年度) 平成30年・令和元年度	生産コスト：944円/kg/年	生産コスト：864円/kg/年 (現状年度と目標年度では栽植密度が17%減少していることを踏まえ、現状値及び目標値の生産コストから一律17%減少した数字を使用していた。ただし栽植密度の減少によって費用が減少しないもの（設備に係る費用）も一律に補正していたため、事業効果を適正に測定するために、これらのコストについては、実績値17%減の数字を使用している。）	-11.0%		